

暑中お見舞い申し上げます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

令和8年度 難病医療従事者講習会（対面）について

今年度の難病医療従事者講習会（対面）は以下のように開催いたします。
皆様ご多用のこととは存じますが、ご参加をお願い申し上げます。

【開催日時】 令和8年 10 月 22 日（木） 13 時 00 分～16 時 00 分

【開催場所】 静岡音楽館 AOI 講堂
静岡市葵区黒金町 1 番地の 9

[講堂・施設のご利用について・静岡音楽館 AOI](#)



会場のご案内 QR コード



【講習会】 2 題

1.<テーマ>

筋萎縮性側索硬化症の病態・生理—嚥下・コミュニケーションと認知症—

<講 師>

浜松医科大学光医学総合研究所 バイオフォトリクスイノベーション寄付講座 特任准教授

静岡てんかん・神経医療センター 脳神経内科 寺田 達弘先生

2.<テーマ>

筋萎縮性側索硬化症（ALS）のコミュニケーションについて

<講 師> 北斗わかば病院 リハビリテーション部

言語聴覚士 伊藤 ちあき先生

【参加方法】 nanbyou-manabi@hama-med.ac.jp（当室アドレス）へ
氏名・ご所属・職種・メールアドレスをご記入し送信をお願い致します。
申し込み後は、当日開催場所までお越しください。開場は 12 時 30 分です。

【お願い】

本件お申し込みは令和8年 10 月 20 日（火）までとさせていただきます。

自然災害等による開催中止の場合は

お申込みいただいたアドレスへご連絡差し上げます。

会場（講堂）内では自由にご飲食いただけます。

※ ロビー等での飲食は不可です。

飲食の提供はございませんので、

必要に応じて各自でご準備のうえ ごみはお持ち帰りをお願い致します。



講師・講義のご紹介

<寺田達弘先生>

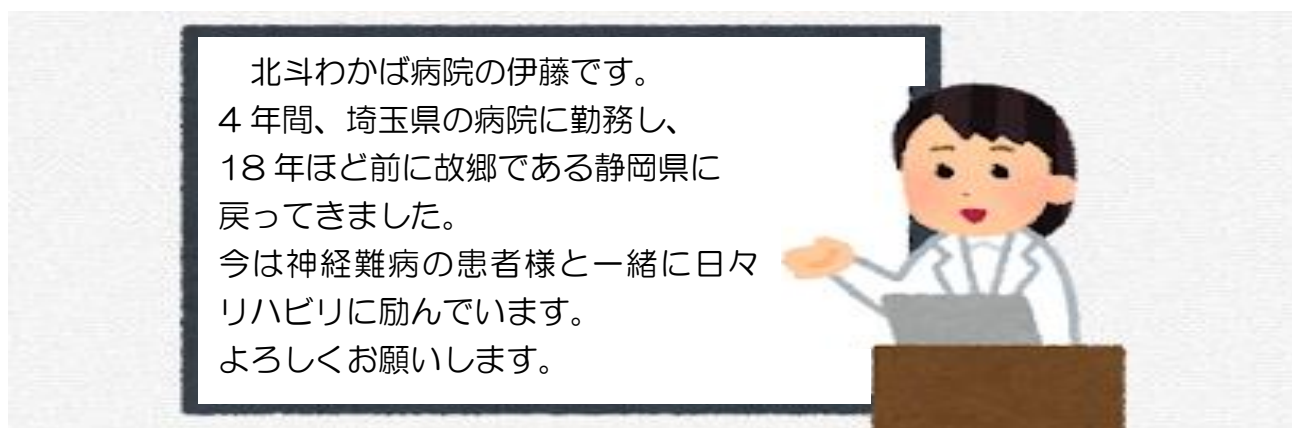


浜松医科大学 光医学総合研究所 バイオフォトリクスイノベーション寄付講座 特任准教授、静岡てんかん・神経医療センター 脳神経内科の寺田達弘先生です。寺田先生は神経内科医で、認知症疾患のPET や神経心理を専門とされています

<講義内容>

筋萎縮性側索硬化症（ALS）は、手足の筋力低下だけでなく、話にくさや飲み込みにくさ、呼吸障害など、生活に大きく関わる症状を呈する進行性の神経疾患です。近年では、ALS は運動神経の病気としてだけでなく、認知機能障害や行動障害を伴う前頭側頭葉変性症として捉えられるようになってきています。コミュニケーションや嚥下の問題は、患者本人だけでなく、家族や医療・介護スタッフとの関りにも大きな影響を与えるため、多職種での理解と支援が重要です。本講演では、ALS の病態と生理を整理しながら、臨床で役立つ視点を交えて解説します。また見落としてはならない認知症・認知機能障害についても取り上げ、日常診療やケアにどのようにつなげるかを一緒に考えていきます。

<伊藤ちあき先生>



<講義内容>

筋萎縮性側索硬化症（ALS）のコミュニケーションについてお話をさせていただきます。病気の進行に伴い、意思伝達手段が限られていく中でコミュニケーション支援は難渋することが多いと思います。近年は身体機能だけでなく、認知機能の問題もコミュニケーションの難しさに影響を与えています。

発話以外のコミュニケーション支援としてはローテク物品とハイテク物品があります。今回は重症度による段階的なコミュニケーションの選択方法や文字盤、機器、スイッチの選択などできるだけわかりやすくみなさんと共有していきたいと思います。最後に症例を通して、その方に合ったコミュニケーション支援の考え方のヒントになる内容をお伝えできればと思います。

お問い合わせ先 浜松医科大学医学部附属病院 難病医療相談支援室



メール：nanbyou-manabi@hama-med.ac.jp

TEL/FAX：053(435)2477

おまちしております。